

地域医療連携だより

えん

発行日：令和7年2月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

腎臓・膠原病内科について

腎臓・リウマチ・感染症内科部副部長 松永 貴弘

平素より地域の先生方には多大なるご支援、ご協力を頂き誠にありがとうございます。

当院の腎臓、膠原病内科の仕事内容について、概要を説明させていただきます。

腎臓内科では、慢性腎不全の管理、末期腎不全への対応、慢性腎炎の診断、腎障害の原因検索・対応を主な業務としています。特に腎臓病の診断において重要な腎生検については禁忌事項がない場合には積極的に実施し、病理部とも綿密に連携を図ることで実施後およそ5～7日程度で基本方針が決定できるよう尽力しています。

末期腎不全の患者さんには、腎代替療法専門指導士の資格を持つ医師が1時間程度かけて療法選択のための外来を設け、適切な選択をサポートしています。血液透析、腹膜透析の導入はもちろんのこと、腎移植についても県立中央病院や大学病院への紹介を行うことで実際に移植に至った症例が増えています。また、保存期の患者さんに対しても生活指導に加え、ご家族を含めての栄養士からの栄養指導を行い、腎障害を抱えた状態での生活についての理解を深めるとともに、適宜腎臓病教室に参加いただくことで病気そのものへの理解が深まるよう努めています。そのほか幹細胞移植に向けた末梢血幹細胞採取や、単純血漿交換療法(PE)、二重膜濾過血漿交換法(DFPP)、選択的血漿交換(SePE)、特殊なサイトカイン吸着膜を用いた急性血液浄化などを実施しております。

膠原病内科では、関節炎の原因検索や臓器障害を伴う血管炎等の診断・治療を行っています。非典型的な症状で発症することが多い膠原病は、他科からの紹介を通じて当科の診断に至ることが多く院内連携が非常に重要です。当院では整形外科、呼吸器内科、皮膚科、眼科、内分泌内科など多数の科と迅速に連携可能であり、特に整形外科とは合同でリウマチ外来を開設しています。病態の管理は当科で、外科的対応や画像管理は整形外科で分担し、個々の患者さんを多くの目で見守ることでよりよい診療を提供しています。患者さんの診療でお困りになられた際はどうぞお気軽にご紹介ください。

今後も地域に根差した腎臓・膠原病診療を続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



第89回 富山赤十字病院地域医療連携の会

令和7年1月29日(水)午後7時より、富山電気ビルディングにおいて「第89回 富山赤十字病院地域医療連携の会」を開催いたしました。開業医の先生方48名、当院医師・看護師等59名、総勢107名の参加がありました。富山県厚生部 有賀部長、富山県医師会 堀地副会長、富山市医師会 舟坂会長より、来賓のご挨拶を賜りました。新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科 吉原 弘祐教授をお迎えし、「産婦人科の近未来」と題しご講演をいただきました。引き続き行われた懇親会では、豊赤バンドの演奏を聴きながら、地域の先生方と楽しいひと時を過ごし、更に連携の絆を深めることができました。

来賓挨拶

乾杯挨拶



富山県厚生部 有賀部長



富山県医師会 堀地副会長



富山市医師会 舟坂会長



よしだ医院 吉田 誠 院長



懇親会



豊赤バンド

トランペット：橋本(当院整形外科医師)
ピアノ：藤井(当院検査技師)

産婦人科の近未来

新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科 教授 吉原 弘祐 先生



吉原 弘祐 教授

令和7年1月29日に富山電気ビルディングにて「第89回 富山赤十字病院地域医療連携の会」が開催されました。特別講演として新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科 教授 吉原弘祐先生に「産婦人科の近未来」と題しご講演をいただきました。当日はたくさんの連携医の先生にご参加いただきありがとうございました。

講演では、新潟県内での現状を話され、少子化で分娩件数が減少し人口減少が起こる中、産婦人科医の減少も相まって地方の産婦人科施設の閉鎖という事態となっていること、病院経営も県立病院、JA新潟厚生連病院で大幅な赤字・経営危機の状態となり、分娩・小児科等の不採算部門が切り離される危機にあること、その中で少子化打開の方法としては「子を望んでも恵まれない方がたくさんいる」「若年未婚男女では子どもは欲しくないとの回答が多いこと」などを鑑み、妊娠・出産への考え方が多様化する中で、産婦人科医は「性教育」「プレコンセプションケア」などで病院外へ飛び出し、積極的に啓蒙活動を行うことが必要であるということを知りやすく講演いただきました。講演終了後および懇親の席においても、参加された先生から様々な質問が寄せられ、それぞれに対して丁寧に回答していただきました。また、当日は将来産婦人科医を志望する若手研修医も多数参加し先生のお話を真剣に傾聴していました。

文責：第1産婦人科部長 桑間 直志



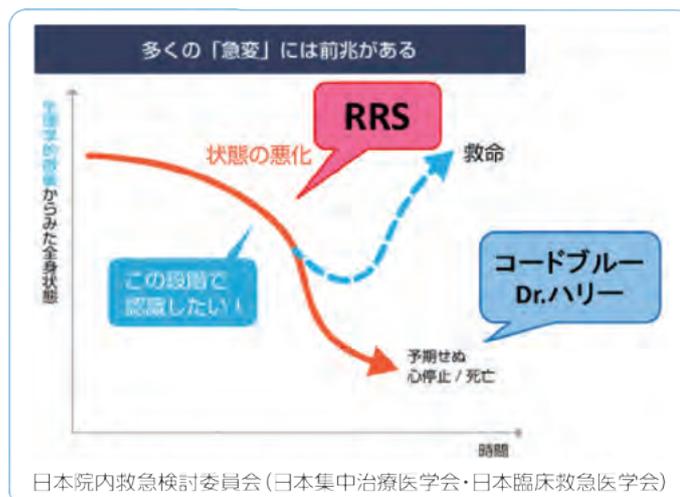
RRTを紹介します

集中治療室 看護師 中田 愛子

RRS (Rapid Response System) の目的は、院内の予期せぬ心停止や死亡を減らすことです。RRSに基づいて対応するチームがRRT (Rapid Response Team) です。入院中に心停止を起こす多くの患者さんが6～8時間前に何らかの兆候を示すため、この時点での早期察知と早期介入が重要です。すでに周知されているコードブルーが心停止や呼吸停止等に起動されるシステムに対し、RRSは患者さんの病態変化をキャッチし、急変に至るのを防ぐシステムです。

当院では2018年から導入し、今年度より24時間365日での対応を開始しました。要請基準は、心拍数・収縮期血圧・呼吸回数・酸素飽和度・意識の変化、出血に加え、普段と比べて「何か変」、「何か心配」等のスタッフの気付きや不安も対象としています。メンバーは、麻酔科医を中心に救急や集中治療の経験を有した医師、クリティカルケア領域の専門看護師や認定看護師、集中治療室看護師、臨床工学技士、理学療法士で構成しています。要請があると速やかに対応し、外来や病棟スタッフと共に患者さんの状態を評価し介入します。患者さんの状態に合わせて、様々な職種が専門性を発揮し協力し合い、適切できめ細やかな対応をしています。要請件数は月に15件程でRRTの院内周知とともに増加傾向にあります。要請理由は、酸素飽和度低下や呼吸回数増加等の呼吸状態の悪化、意識レベル低下が多いです。「何か心配」等の急変への懸念での要請もあります。RRT要請された患者さんには、早期に治療が開始され重症化せずに済んだ方、退院された方も多くいらっしゃいます。

予期せぬ心停止を防ぎ、患者さんに安心・安全な医療を提供できるよう、スタッフと共に取り組んでいきます。今後ともよろしく願いいたします。



RRTメンバー



研修医の地域医療研修

診療部長兼第1整形外科部長兼研修センター長

中村 宏

研修センターでは初期臨床研修の管理運営を行っています。卒後臨床研修においては地域医療研修が必須項目となっているため、不二越病院、富山西総合病院、富山まちなか診療所、前川クリニックにお世話になっています。地域医療研修に当たっては、当院で学べない貴重な経験をさせていただいており、深く御礼申し上げます。今後も引き続き御指導の程お願い申し上げます。



研修医 石舘 綾子

まちなか診療所で1カ月間研修させていただきました。訪問診療では、病棟では分からない、患者さんの自宅での過ごし方を実際に見ることができ、生活環境に合わせた医療の提供がいかに重要かを実感しました。ご家族の介護の様子や福祉サービスの活用状況を知ること、病院では見えなかった課題にも気づくことができました。また、気管カニューレ交換や胃瘻交換などの手技も経験させていただき、在宅医療における実践的なスキルを身につけることができました。限られた医療資源の中で、患者さんにとって最適な医療を提供する難しさと同時に、そのやりがいも感じました。ご指導いただいたまちなか診療所の皆さまに、心より感謝申し上げます。



研修医 森田 達也

まちなか診療所で1カ月間研修し、訪問診療について学ばせていただきました。病院やクリニックの外来は、医療者のホームであり、会話の内容や空気感は医療者のペースに委ねられます。患者さんにとって外来は慣れない場所であり、緊張が伴います。一方、訪問診療では患者さんは自分のペースで診察に臨むことができ、我々に本来の姿をみせてくれます。また家族の様子や家庭内の状況からも、生活状況を推察することができます。

患者の本音を引き出し、全人的医療を提供できる訪問診療は、理想の医療を体現していると知ることができました。将来、病院の外来であっても、訪問診療のような安心感を与えられる診察を目指したいと感じました。

ご指導してくださった先生方やスタッフの方々、新たな気づきのきっかけをくださった患者さんに感謝申し上げます。



研修医 増 優太

不二越病院に地域医療研修でお世話になりました。主に急性期を過ぎ、自宅退院や施設へ退院するまでの亜急性期～慢性期の患者さんの診療を経験させていただきました。疾患がメインの問題となる急性期と比べて、ADLや療養環境など患者さんごとに退院・転院までに解決すべき問題が異なるため、他職種で協議し同じ方向を向いて診療を進めていくことの大切さを学びました。その他にも、多くの先生にご指導頂き心エコーやシャント穿刺に透析管理、内視鏡検査など多くのことを経験させていただきました。短い期間でしたが、一ヶ月とは思えない密度で勉強できました。そのような環境を用意し、温かく迎えてくださった不二越病院の皆様にこの場をかりて感謝申し上げます。



地域包括ケアチーム学習会(医療介護連携推進会議)を開催しました

患者支援センター 加藤 真理子

地域包括ケアチーム学習会は、柳町・清水町地域包括支援センターと愛宕・安野屋地域包括支援センター、富山赤十字病院患者支援センターが合同で企画しています。医療の継続が必要な場合でも、在宅で安心して生活を送ることができるよう、介護保険事業所や施設、病院等の担当者が連携を深めることを目的に実施しています。

今回は、「医療依存度の高い方の在宅生活支援を支えるために必要な支援とは？」をテーマにGWを行いました。「本人・家族の思いをしっかりと確認し、在宅に戻ってからのイメージをして予測を立てていきたい」「医療と介護の連携の重要性を再確認した。ケアマネジャーとして、専門家である医師や看護師のチカラが大切だと実感した」などの意見が聞かれました。その後、富山医療生活協同組合在宅福祉総合センターきずな訪問看護ステーション管理者 西野友香里氏を講師に迎え、「医療依存度の高い方の在宅療養支援の実際」と題し、講義をいただきました。在宅での医療機器の取り扱い方、訪問看護制度や在宅医療にまつわるお金の話など、新たな知識を得ることが出来ました。

終了後のアンケートより、「医療職の参加がもっとあると良い」という意見もあり、地域の医療介護連携がさらに推進できるよう、今後の企画運営を行なっていきたいと思っております。



入院説明をLINEや動画でサポート

患者支援センター 師長 曾山 潤

11月より入院生活を動画でサポートする『ポケさぼ』を導入いたしました。



LINEサポートでは友達登録することで、入院準備に必要な動画の提示や注意事項についてリマインド通知を受けることができます。



動画サポートでは「入院説明」「書類の書き方」などQRコードを読み取ることで動画を視聴することができます。

患者さんやご家族の都合のよい時間に、何度でも説明動画を視聴していただく事ができます。ご希望の方には、患者支援センターでLINE案内用紙やQRコード用紙をお渡ししています。

3月、4月の外来診療に関する医師不在日案内

3月

科名	医師名	不在日
眼科	辻屋 壮介	25日(火)
心血管呼吸器外科	池田 真浩	24日(月)
脳神経外科	桑山 直也	7日(金)
外科	倉田 徹	28日(金)
整形外科	清水 一夫	24日(月)
内科	黒川 敏郎	24日(月)、25日(火)
	勝田 省嗣	28日(金)
	東 雅也	28日(金)、31日(月)
	日比野真也	7日(金)、14日(金)、 21日(金)、28日(金)
	佐藤 淳司	25日(火)、27日(木)、31日(月)
	宮 有佑	26日(水)、28日(金)、31日(月)
	上岸 未樹	28日(金)、31日(月)
	川島 隼人	27日(木)
産婦人科	高橋 裕	13日(木)、31日(月)
	松田美智子	6日(木)、10日(月)、24日(月)
泌尿器科	外島 和樹	25日(火)、31日(月)

4月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	9日(水)、25日(金)
小児科	足立 雄一	18日(金)
	津幡 眞一	18日(金)
心血管呼吸器外科	川向 純	8日(火)
内科	川根 隆志	14日(月)
	仙田 聡子	4日(金)PM



※不在日には、代診を立てております。

患者支援センターからのお知らせ

☆5月1日(木)は創立記念日のため、休診いたします。

第90回「地域医療連携の会」につきまして、後日日程をお知らせいたします。

皆様の参加をお待ちしております。

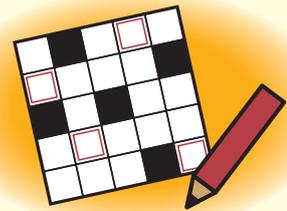


編集後記

余寒も厳しい毎日が続いておりますが、みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。寒いとつい外出を控えてしまいますが、有意義なおうち時間にすることも難しいものです。クロスワードが趣味の祖母は、超難関の冊子を定期購入し、調べず、懸賞応募もせず、毎日黙々と解いています。黒塗りやヒントのない真っ白なマスは、宇宙飛行士の試験かと思いました。認知症とは遠そうな83歳、誇らしいです。

みなさまもまだ寒い日が続きますので、おうち時間を楽しみながらくれぐれもご自愛ください。

(社会福祉士 藤岡 菜緒)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)